

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)		*	*	*
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の前年比が改善傾向にある。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・店舗周辺で住宅やマンションの建設が増加している。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・来客数は想定より少ないが、客は意外と単価の高い物を買っていく。景気は少し良くなっている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・1月は例年、大きなバーゲンセールを行っており、今回のバーゲンセールについても前半は好調で良い数字で推移した。後半は少しバテ気味で売上が減少したが、総合すると1月の売上は良かった。
		家電量販店（副店長）	単価の動き	・客数は前年を下回っているが、大型商品の購入が多く、客単価が良い。
		乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・12月の歳末イベントに続き、1月の初売りイベントも予想より好調だった。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・引き続き新型車の売行きが好調で、特に高級車の高グレードの物がよく売れている。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・10連休のゴールデンウィークが近づいてくるにつれて、業況は非常に上向きである。客が動き出してきた。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・例年と比べ、12月に余り客が動かなかったため、今月に流れている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・年始は福袋も含め、バーゲンセールの出足は好調だった。中盤から少しペースダウンしたが、来客者数は依然として好調を維持している。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	来客数の動き	・空き店舗も増えており、引き続きかなり厳しい状況である。今後どうなるか不安がある。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・競合先の出店が落ち着いたので客数の変動もやや落ち着いたが、客が買い回りをしている状況は引き続いているため客単価は伸びない。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・客数前年比が回復しない。客単価の上昇で売上が前年を上回っている状況は変わらずである。
		衣料品専門店（営業責任者）	単価の動き	・売上はやや前年を下回って推移している。暖かい気温が続いていたため、コートやダウンジャケットの動きが鈍く、客単価が下落している。客単価の減少が売上に直結している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	お客様の様子	・寒くなってきたが、コート等の重衣料品が特に売れているわけではなく、状況は変わらない。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・市全体の景気動向はまあまあだが、温泉街は温泉施設の改修工事が始まったり、耐震のための建て替えなどで宿泊できる部屋数が減っているなどの事情があり、少し元気がない。皆が頑張っているのので、2～3か月後には良くなるだろう。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・相変わらず景況感がない状態が続いている。平成30年7月豪雨からの復興のための13府県ふっこう周遊割が、この1月までであるが、新しい客を開拓するのではなく、既存客がそれにすり替わった状況であり、余り変わらない。
		通信会社（支店長）	販売量の動き	・特段の変化は見られない。
	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・販売量が、3か月前と同水準にとどまっている。	
	競輪競馬（マネージャー）	来客数の動き	・入場者数が瞬間的には増加している時期があるものの、月全体では、ほぼ横並びで推移している。売上高も比例しており景気はほぼ変わらない。	
	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築単価が下落する見込みもあり、動きについて、見通しが立たない。	

	商店街（事務局長）	販売量の動き	・正月は天候にも恵まれ初売りは多くの人出でにぎわった。冬物のセールを月初からスタートした店は前半好調に推移したものの、温暖な日が多く、気温が余り下がらなかったため、中旬以降にセールをスタートした店を含め月中盤からの伸びがなくなり失速した。
	商店街（代表者）	それ以外	・日本の政治経済状況は余りにも課題が山積で、良好で安定的な状況は当面望めない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数の前年比が多少悪化しており、年始から成人の日までが1週間空いたため、サービス業にとっては余り良くなかった。
	一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・年末年始以外の繁華街の人通りが少なく、飲食店に配達に行っても客入りが少ない。今年の1月後半は特に少なかった。
	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・外商売上が落ち込んで、前年同月比でマイナスとなった。
	百貨店（営業統括担当）	販売量の動き	・新年初売りは好調なスタートだったが、2日目以降は来客数、売上共に落ち込んだ。セールでも客の買い方は慎重だった。月後半にはバーゲンセールを行い売上拡大を図ったが、客の反応は鈍い。月を通してみると、高額品、化粧品はプラスを維持したが、衣料品の売上高のマイナスが大きい。
	百貨店（販売促進）	販売量の動き	・全国的に1月の実績はマイナス傾向にある。
	スーパー（財務担当）	単価の動き	・値下げやポイント付与など、販売促進策には強く反応するが、平常時は買い控えする傾向がますます強まっている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車受注状況が前年後半は対前年を上回る状況で推移したが、今年になってからは前年比95%程度の推移に変化している。
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・初売りイベントの来客数が例年より格段に少なかった。
	タクシー運転手	お客様の様子	・1年間を通して1月が一番収入が下落する月であり、やや悪くなっている。客の話では、新年会がなくなったという声が60%前後あった。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・成人式も終わり、寒さのせい客数が伸びない。
	× 一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・年明けから商品の動きが悪い。
	× スーパー（店長）	単価の動き	・年始は非常に好調だったが、正月明け以降、売上の低迷が続いている。特に野菜の単価の低迷が長期間続いており、全体に影響を及ぼしている。
	× コンビニ（店長）	来客数の動き	・来店客数、売上共に減少の一途で特に前年秋以降の減少が著しい。
	× タクシー運転手	来客数の動き	・今年に入って、極端に動きが悪くなった。日中も客数は少なく、特に夜が薄く暇で、売上が大きく減った。
企業 動向 関連 (四国)	-	-	-
	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・大手住宅メーカーの受注が増加しており、好調である。消費税の引上げ以降も住宅ローン減税、エコポイントなどの施策が発表されており、しばらくは順調に推移するだろう。
	輸送業（支店長）	受注価格や販売価格の動き	・輸送にかかる燃油費や人件費等の単価交渉において、景気の回復もあいまって、客側の受入れ感が前よりも増し、交渉の結果が好転する状況が増えている。
	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・業界として例年1月は悪いが、前年同月が悪すぎたこともあり、前年比という物差しで比較した場合には好調である。また、12月が悪かったためにその反動もあって1月は比較的好調である。2月にもこの勢いは少し波及してくるだろう。

	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年比で売上は順調であるが、魅力的な商品投入によるもので、景気は良くない。特に地方の小売店の状況はますます厳しくなっており、路面専門店はもちろん、大型モール内の雑貨小売店は、デフレ、競合との値引き合戦に追われ、経営が成り立たないところもある。
	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・12月前半までは受注、出荷とも増加していたが、12月中旬以降は動きが悪くなっている。暖冬傾向のため、1月も冬物商材の荷動きが悪い。
	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・主力造船関連は順調である。その他産業用機械等は変化がない。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工場の動きは活発で、いろいろな形でメンテナンスや新規のプラント事業がある。景気は引き続き良好だろう。
	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・販売量に大きな変動がない。個別製品ごとに多少の増減がみられるものの、全体量としては同程度である。なお、販売価格についても変化がない。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・11～12月は、受注がかなり減った。その傾向が1月も続いている。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年、年末から年度末にかけては繁忙期にあるが、今期は災害関連業務が多かったため手持ち業務量が増えた。その分、売上も増加傾向で、景気はやや良い状態が続いている。
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先の決算書や試算表、当月の売上状況から、余り変化を感じない。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・燃料の価格高騰と輸送費の値上げで、採算が悪くなっている。
	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・実際の受注量は減少傾向で、人手不足も顕著である。また、10連休の聞えは良いが、学校関係では、授業日数の関係で校外学習がカットされる傾向が出てきた。
	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・1月に入り寒さも例年並みに厳しさを増してきたが、季節商材の動向は依然として鈍く、取扱い物量は例年をやや下回る傾向にあり、取扱物量に特段の変動は見受けられない。消費者は年末年始の支出増を受け購買意欲が低下している。
	公認会計士	取引先の様子	・今月の関与先企業の決算、試算表等を分析すると、前年比で悪くなっている企業が目立ち、赤字の企業が増えている。今まではだいたい3割程度が赤字だったのが、45%くらいまで赤字企業が増えている。
	x	-	-
雇用関連		-	-
		-	-
(四国)	人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・求人数は増えてきているが、直接雇用での人員が確保できておらず派遣に依頼が来ている。
	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・長く続く求人難に打つ手がない状態が続いている。周辺企業でも様々な手で求人募集を行っているが、解決策がなく、景気は横ばいである。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・建設、住宅関連は景気が良いが、それ以外は厳しい。
	職業安定所（求人開発）	周辺企業の様子	・最近、企業の合併の情報が増加してきていたが、少し落ち着いてきた。
	民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・相変わらずの求人難ではあるが、以前ほどの切迫感はない。求人難のため、リストラを始め、内部で人員の遣り繰りを行っている企業も多く見受けられる。
	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・弊社は事務系人材派遣を得意としているが、事務職未経験者からの求職申込みが増加してきている。
	人材派遣会社（営業）	雇用形態の様子	・流通、サービス業界、医療介護業界の人材不足が深刻である。その結果、シフトが回らない、常時配置人員を減らして少人数で対応しているなど、働き方改革が唱えられるなか、理想と現実の板挟みの現場をどう解決していくかで景気は良くなるだろう。
	x	-	-